

ひまわり

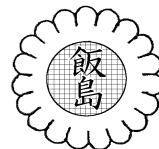
2月号 令和6年1月31日

横浜市立飯島小学校

生きるよろこび

学ぶ楽しさ

のびのび 飯島っ子



4年に1度の「うるう年」

副校長 細矢 千穂

1月13日(土)は、天候に恵まれ、無事、どんど焼きが行われました。コロナ禍で行われた昨年度と違い、今年度は地域の方にも入っていただくことができました。消防団による放水、燃え盛る中で鳴り響いた竹の「パン！」という大きな音。初めて見た1年生の児童からは「すごかった!」「おもしろかった。」などの言葉が聞かれました。事前に、どんど焼きについて理解するための学習も行いました。こういった機会に地域や学校に愛着がもてるような工夫を続けたいです。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

さて、今年はうるう年。4年ぶりに2月は29日まであります。そこで、今回はうるう年について調べてみました。

現在私たちが使っている暦は「グレゴリオ暦」といい、世界中の国で使われています。グレゴリオ暦法では、うるう年を次のように決めているそうです。

(1) 西暦年号が4で割り切れる年をうるう年とする。

(2) (1)の例外として、西暦年号が100で割り切れて400で割り切れない年は平年とする。

2024年の今年(1)の4で割り切れる年なので、うるう年になります。また、西暦2100年は(2)の100で割り切れるけれど400では割り切れないので、平年、つまり、2月も28日までとなります。ですが、西暦2000年、2400年は、100でも割り切れますが400でも割り切れてしまうので、(2)には当てはまらず、うるう年となります。

自分は、4で割り切れるときはうるう年、としか思っていなかったのが、こんな決まりがあったのか、と改めて驚きました。2000年は(2)の決まりに当てはまらなかったから、この決まりを知らなくても大丈夫だったのですね。

さて、どうしてこのような決まりがあるのでしょうか。それは、天文学的なことに関わりがあるようです。国立天文台のホームページには次のように説明されています。

『地球が太陽の回りを一回りするには、約365.24219日かかります。グレゴリオ暦では、1年の平均日数が、この日数に近くなるようにうるう年を入れています。とはいっても、グレゴリオ暦法での1年の平均日数を計算すると365.2425日になりますので、グレゴリオ暦の1年と実際の1年との間には約0.00031日程度の差があります。そのため、数千年程度で1日のずれが生ずるはずですが、しかし、そのときにどのように修正をおこなうのかは、今のところはっきり決まっていません。』

1年は365日。4年に1度、366日にして、1日のずれを修正する。さらに、400年に3度、うるう年にせず、ずれを調整する。それでも数千年すると、また、ずれてしまうのですね。調べてみたら、当たり前と思っていたことにも新たな発見がありました。理由までわかると、わくわくします。児童の皆さんにも、たくさん発見し、たくさんのわくわくを味わってほしいです。

(参考、引用;国立天文台 HP「どの年がうるうどしになるの?」)